EARNINGS REPORT FY26 Q3

2026年12月期 第3四半期 決算説明資料

GreenBee株式会社（東証スタンダード：3913）

2026年11月12日

本資料の複写・転用はしないで下さい



テクノロジーで、持続可能な未来を築く会社

DIGITAL TRANSFORMATION ＋ GREEN TRANSFORMATION



事業ポートフォリオ

01 DXサービス事業

継続性と収益性の高いサブスク特化型事業。
クラウドデータバックアップサービスのGreenBee Cloud Backup、Androidアプリ脆弱性診断サービスのRiskFinder等を展開。

02 GXサービス事業

脱炭素化に貢献するサービスを提供する事業。
系統用蓄電所の運営・EMSクラウドサービス・蓄電池システムのカスタムパッケージを展開。

03 テクノロジーライセンス事業

競争優位な技術IPをライセンスする事業。
tourbillon・GreenBee Data Transfer・Reclip等、AIを活用した製品を展開。

SECTION 01

決算概要

2026年12月期 第3四半期

売上高
976百万円
前年同期比
+47.0%

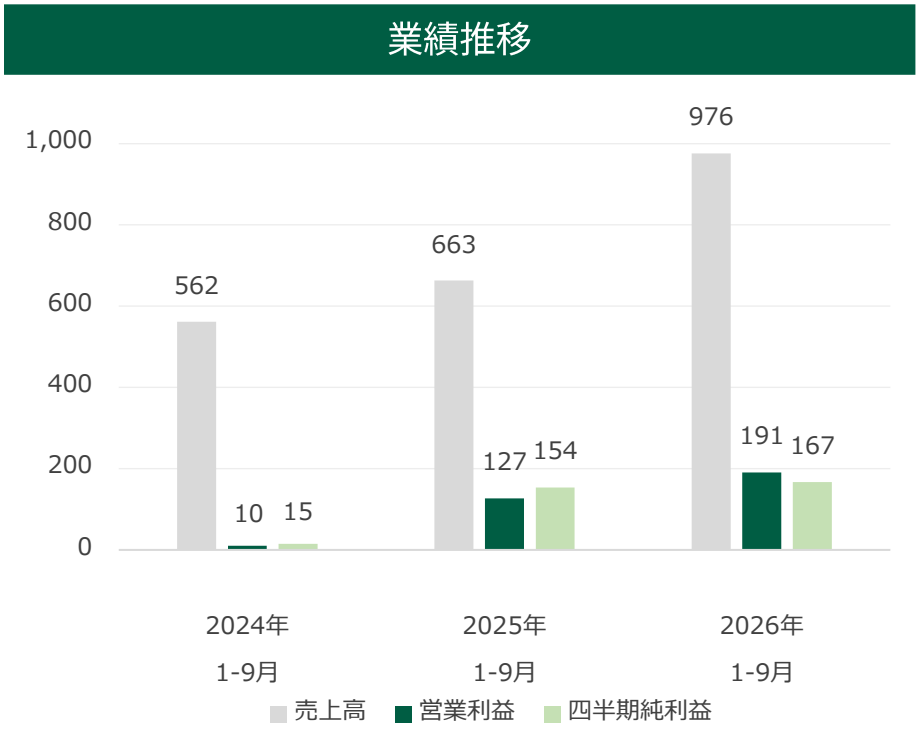
営業利益
191百万円
前年同期比
+50.7%

四半期純利益
167百万円
前年同期比
+8.7%

Point

- 売上高、営業利益、経常利益のいずれも、第3四半期累計期間で、前期通期実績をすでに超過。
- 第3四半期累計期間の四半期純利益は167百万円となり、過去最高を更新。
- 1株当たり四半期純利益は、前年同期66.26円から81.42円に増加。

単位：百万円



	予算進捗率		
	2026年Q3実績	通期予算	進捗率
売上高	976	1,308	74.6%
営業利益	191	208	91.7%
経常利益	185	198	93.5%
当期純利益	167	182	92.1%

単位：百万円

	2024年 1-9月	2025年 1-9月	2026年 1-9月	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	562	663	**976**	312	47.0%
売上原価	252	245	**309**	63	26.0%
売上総利益	310	418	**666**	248	59.4%
販管費	299	291	**475**	183	63.2%
営業利益	10	127	**191**	64	50.7%
経常利益	13	126	**185**	58	46.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	15	154	**167**	13	8.7%
売上原価率	*44.9%*	*37.0%*	*31.7%*	*◢5.3p*	*n/a*
営業利益率	*1.9%*	*19.2%*	*19.6%*	*0.5p*	*n/a*

- **売上高**
  前年同期との比較で、テクノロジーライセンス事業で31百万円減少しましたが、DXサービス事業で339百万円増加したことで、47%増の976百万円となりました。

- **営業利益**
  主にDXサービス事業の「GreenBee Cloud Backup」の貢献により、前年同期比で50.7%増の191百万円となりました。営業利益率は19.6%となりました。

- **親会社株主に帰属する四半期純利益**
  営業利益が増加した一方、未払法人税等が増加し、前年同期比で8.7%増の167百万円となりました。

単位：百万円

	2024年12月	2025年12月	2026年9月	前期末比増減額	前期末比増減主な要因
資産合計	1,304	1,676	**1,883**	206	
流動資産	1,229	1,557	**1,092**	▲464	・現金及び預金511減少
固定資産	75	119	**790**	670	・有形固定資産579増加
負債合計	113	286	**635**	348	
流動負債	102	186	**245**	58	
固定負債	11	99	**389**	290	・長期借入金287増加
純資産合計	1,191	1,390	**1,247**	▲142	・自己株式315減少、利益剰余金167増加

- **資産**

  総資産は四半期純利益の計上により206百万円増加しております。なお、系統用蓄電所(有形固定資産)の取得や自己株式の取得等により、現金及び預金が前期末比で511百万円減少しました。

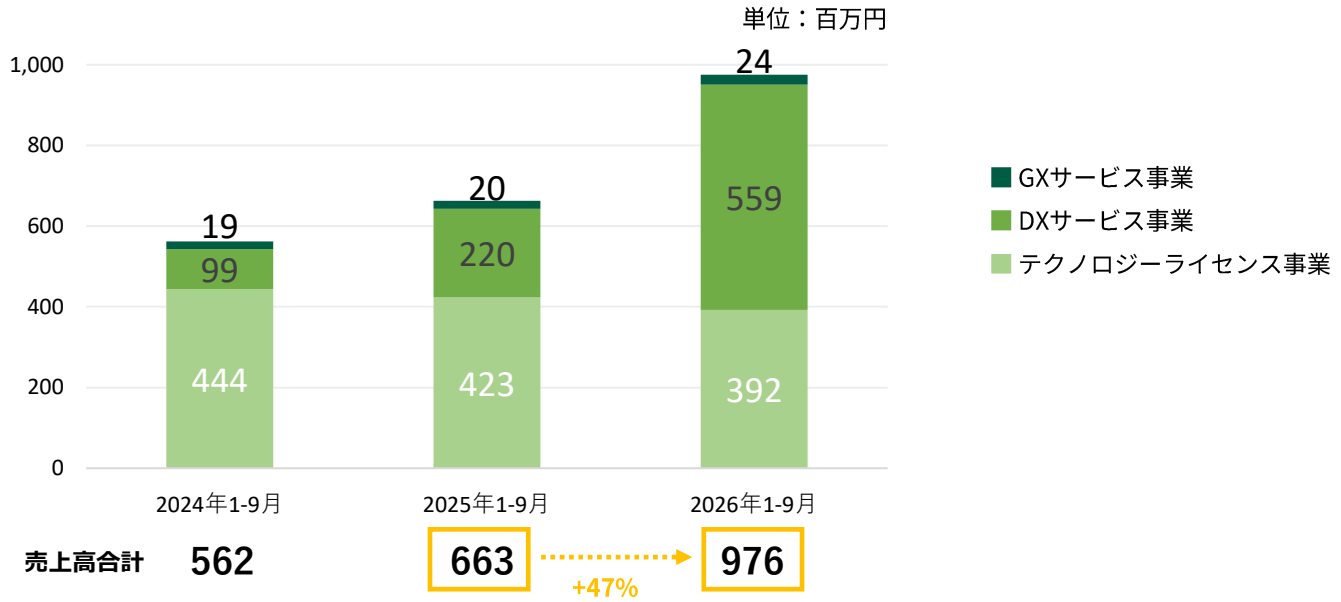
- **負債**

  系統用蓄電所取得に伴う資金調達により、前期末比で長期借入金が287百万円増加しました。

- **純資産**

  四半期純利益を167百万円計上した一方で、30.6万株の自己株式を取得したこと等に伴い、前期末比で純資産は142百万円減少しました。

売上高 前期比+47%、GreenBee Cloud Backupが成長をけん引



- **GXサービス事業**
  自社系統用蓄電所において卸電力市場と需給調整市場での電力取引による売上を計上しております。
- **DXサービス事業**
  「GreenBee Cloud Backup」の有償サブスクリプション契約者数の順調な増加により、売上高は220百万円から559百万円へと大幅に拡大しました。
- **テクノロジーライセンス事業**
  4K/8Kプレミアコンテンツ再生プレイヤーを搭載する顧客製品の出荷数は引き続き減少傾向である一方で、収益性の高い製品へのポートフォリオ転換等により、売上高は392百万円となりました。

SECTION 02

事業概要

2026年12月期 第3四半期

- **GreenBee Cloud Backup**の有償サブスクリプション契約者数は53.6万人（9月末時点）。月間リカーリング収益は2025年12月比で146%に拡大。➤ ストック型収益基盤の積み上げが堅調に推移しております。（P11-P12参照）（DXサービス事業）

- Androidアプリの脆弱性診断ウェブサービス**RiskFinder 17**（Android OS17対応版）をリリース。➤ 昨今、情報漏洩が頻発している主な要因として、Androidアプリの解析による攻撃情報の取得が挙げられます。**RiskFinder**でAndroidアプリを検査する事により、セキュリティホールの検出に加え、攻撃者に知られてはならない情報が含まれているかを事前に確認することができます。（P13参照）（DXサービス事業）

- **系統用蓄電池事業用EMS（エネルギーマネージメントシステム）**の開発において、IPA*1が運営するIoT製品のセキュリティ要件適合評価及びラベリング制度である「JC-STAR★１（ラベル１）」の取得を推進。➤ 経済産業省（資源エネルギー庁）は、2027年4月以降に契約申し込みを行う太陽光発電や蓄電池等のサイバーセキュリティ対策として、IP通信機能を有する機器においてJC-STAR★１取得を系統連系要件としています。（GXサービス事業）
  *1 IPAは情報処理推進機構を指し、経済産業省所管の独立行政法人。

- 2026年1月より富士通クライアントコンピューティング社のFMVパソコンにライセンス提供を開始している**ReClip**が、AI PC（NPU搭載PC）に対応。➤AI PCの普及を背景に、PCメーカー各社でNPUを活用したアプリケーションへの需要が旺盛となり、弊社はプリインストールによるライセンスの収益機会と捉えております。（テクノロジーライセンス事業）

スマートフォンのデータを容量無制限でクラウドにバックアップ

CLOUD BACKUP

- スマートフォンのデータを容量無制限でクラウドにバックアップ。
- 高速、セキュア、かつ簡単なバックアップを実現。
- クラウドにバックアップしたデータ閲覧用のオンラインビューアも用意。
- スマートフォン販売事業者、コンシューマー向けサービス事業者などの販売パートナーを通じてサブスク販売。

2023年1月のサービス開始以来、

53.6万人の有償サブスクリプション契約者数

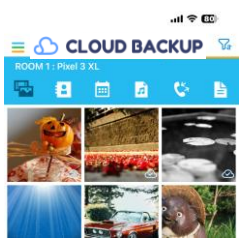
に到達。(2026年9月末時点)

iPhone / Android™ 両対応



3台まで追加可能

オンラインビューア







有償契約者数50万人を突破、主要KPIは順調に進捗

有償サブスクリプション契約者数 *1

2026年
53.6万人
9月末

2026年KPI
58万人
12月末

進捗状況：〇

月間新規獲得者数*2

2026年
2.6万人/月
Q1-3平均

2026年KPI
2.5万人/月
年間平均

進捗状況：◎

月間リカーリング収益（MRR）*3

2026年9月
146%
2025年12月比

2026年KPI
160%
2025年12月比

進捗状況：〇

月間退会率

2026年
1.5%
Q1-3平均

2026年KPI
1.4%
年間平均

進捗状況：△

＊１有償サブスクリプション契約者数とは、月額利用料金等の支払いを伴う契約を締結している利用者数。
＊２月間新規獲得者数とは、当該期間（月間）において新たに有償サブスクリプション契約を開始した利用者の総数。
＊３月間リカーリング収益（MRR）とは、対象月の月末時点における継続課金ユーザーに係る月額料金の合計額のこと（一時収益は含まない）。
MRRとはMonthly Recurring Revenueの略。
進捗状況の◎、〇及び△、×の記号は、実績に対する当社見解を表す。◎：想定以上の結果であることを表す記号。〇：想定通りを表す記号。△：想定を下回っていることを表す記号。×：想定を大きく下回っていることを表す記号。

アプリ解析を起点とする情報漏えいリスクに、予防的診断で対応
～通信キャリア・アプリ開発会社・アプリ検証サービス会社、金融機関等、多方面で採用～

昨今の課題の１つとなっている「A2B攻撃」

「A2B攻撃」とは、一般公開されているAndroidアプリの解析でAPI情報を把握し、バックエンドサーバの弱点を狙う手法。
国立研究開発法人情報通信研究機構NICTも注意喚起を公表。（2026年10月13日）
https://www.nict.go.jp/press/2026/10/13-1.html

公開アプリ	→	アプリ解析	→	サーバを攻撃	→	情報漏えい
APKを入手		URL・API情報を把握		認証・認可等の不備		個人情報等の流出

RiskFinder の役割と有効範囲

アプリ側のリスクを公開前に発見

APKのみで500項目以上の静的チェック
URL・API情報／SSL検証不備／権限・ライブラリ・設定不備 等

対象外・補完が必要な領域

サーバ側APIの脆弱性検証
不正アクセスの検知・遮断

RiskFinderは「アプリ側の予防的診断」。A2B攻撃の総合対策にはAPI・バックエンド診断の併用が必要。

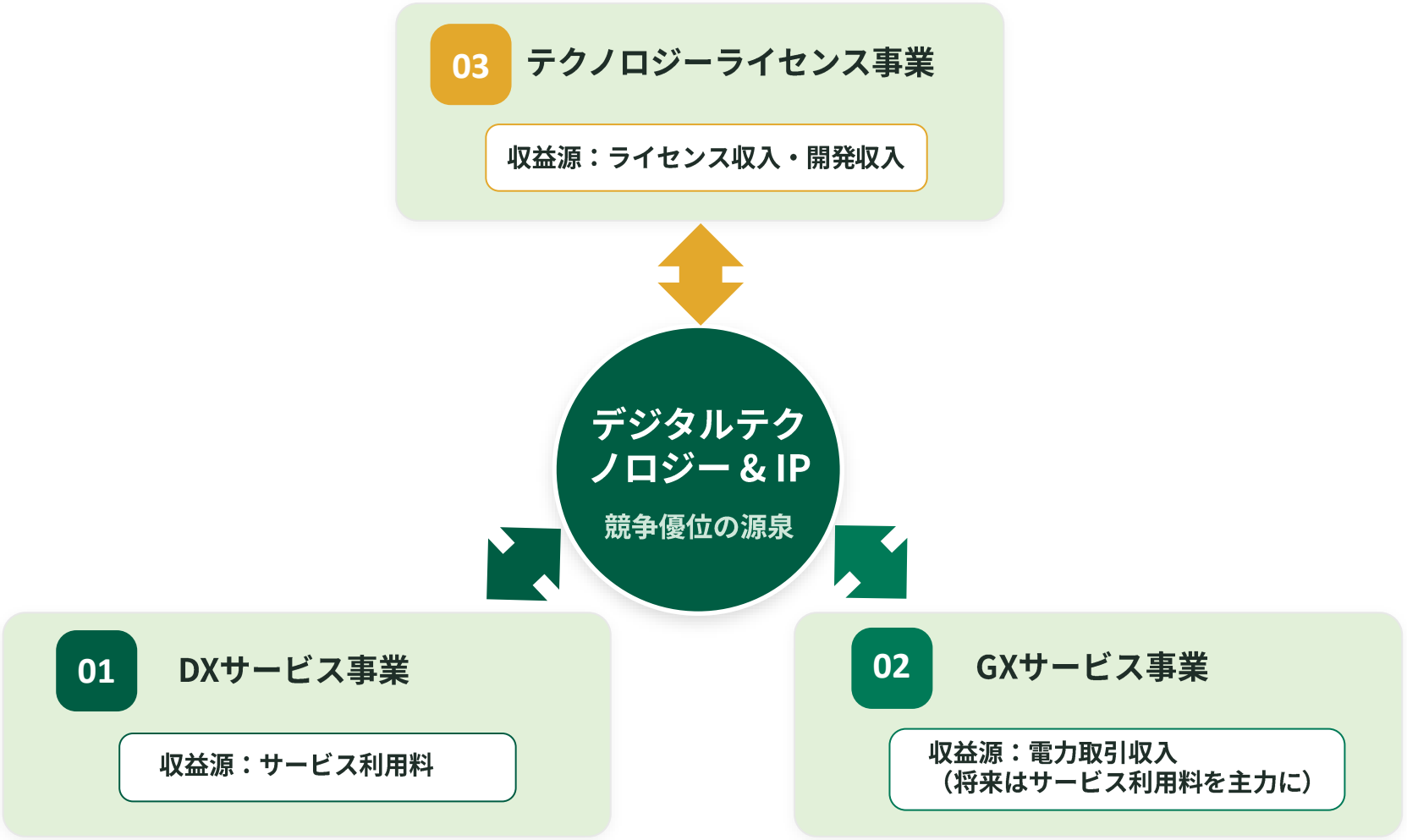
SECTION 03

会社概要

社名	GreenBee株式会社 （東証スタンダード：3913）
所在地	東京都中央区新川2-3-1
設立	2007年3月16日
資本金	10百万円
従業員数	51名（役員、支配権のある子会社を含む）
子会社	GreenBee Energy株式会社、GreenBee Technology(Shanghai), Inc. 、 タオソフトウエア株式会社
開発拠点	中国：上海　日本：東京、新潟
主な取引先	Microsoft Corp.、株式会社NTTドコモ、シャープ株式会社、 富士通クライアントコンピューティング株式会社、株式会社ストアフロント、アイ・ティー・エックス株式会社、NECパーソナルコンピュータ株式会社、Dynabook株式会社、株式会社アイ・オー・データ、 ソースネクスト株式会社、株式会社ウエストホールディングス（順不同）

（2026年9月30日時点の情報）

収益を技術・IPへ再投資 → 3事業へ最適配分 → 事業成長 → さらなる対価の獲得



Tech企業からサービス企業・グリーン企業への変革を推進、次世代の成長ドライバーへの継続投資と持続的な利益成長の両立

2007~2017	2018~2024	2025~2027（現在）	2028~
自社ソフトウェアIPのライセンス販売	自社ソフトウェアIPを活用したDX事業の展開	（現在）持続可能な事業・会社の構築	持続可能な企業として、環境・社会・経済の持続可能性に貢献

既存主力事業

テクノロジーライセンス事業

- AIを活用した製品の投入
- 収益性の高い製品へのポートフォリオ転換

成長ドライバーにキャッシュをはじめとする経営資源を投資

GreenBee Cloud Backup（DXサービス事業）

- 有償契約者数の拡大
  ー販売パートナーネットワーク拡充と一店舗あたりの獲得効率向上
- 低退会率を維持
  ーサービス機能の継続的な強化と顧客満足度を向上
- サービスラインナップの拡充
  ー上位プラン新設等によるARPU*の向上（*ARPU：ユーザー一人当たり平均収益）

系統用蓄電池事業（GXサービス事業）

- 自社蓄電所運営による電力取引からの収益化
- 自社蓄電所を活用したEMSクラウドサービスの強化
- 次期プロジェクト立ち上げの継続検討

本資料の取り扱いについて

- 本資料は、提出日現在に利用可能な情報に基づいて、当社（連結子会社を含む）の事業および業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込み、または予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

- これらの将来の展望には、様々なリスクや不確実性が内在しています。既知、もしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと保証することはできず、実際の結果が将来の展望と著しく異なることもありえます。

- 本資料中の数値は、単位未満の端数処理による影響で表中の合計と一致していない場合があります。



IRに関するお問い合わせ先は、以下のフォームからお願いします。

https://www.greenbee.co.jp/ir/ir-contact/